

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 15 日現在

機関番号：34309

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24320160

研究課題名(和文) ゴーランドの古墳研究の総合的検証と古墳文化に対する国際的理解への活用

研究課題名(英文) The Utilization to International Understanding for Kofun Culture and The General Research in Kofun Study of Gowland

研究代表者

一瀬 和夫 (ICHINOSE, KAZUO)

京都橘大学・文学部・教授

研究者番号：70460681

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本の考古学の黎明期に活躍した、英国人ウィリアム・ゴーランドの古墳資料の調査と研究を総合的におこない、日英双方にまたがる歴史遺産として、古墳研究のみならず、幅広い方面での理解と活用をはかるための資料化を行った。特に、馬具などの金属製品、須恵器や装身具の図化と写真撮影を重点的に行い、これまで周知されていなかった品目の確認が数多くあった。これらと古墳の墳丘や石室などの国内資料の調査を合わせ、総合的資料化を行って日本国内で研究が進展する類似資料との評価が可能となった。これにより、日本古墳時代研究へ寄与し、国際的な理解を得られる形に加工して、世界に発信できる活用する見通しがついた。

研究成果の概要(英文)：This study achieved a survey and the research of Kofun Period materials of the Briton William Gowland which active part at the archaeological dawn in Japan. The Gowland Collection held at the British Museum is the generally and performed archives for understanding and the utilization in not only Kofun study but also the world wide area to measure making it as a historical heritage to sit astride both Japan and Britain. We began the basic work photography and survey of the metal objects such as the horse ornaments harness and stoneware ceramics, accessories in particular. There was much confirmation of the item that was not publicized till now. We examined the research into domestic documents such as the burial mound and the burial chamber with the current general archives. The results will enhance public international appreciation of Japanese archaeology, and process international understanding in form to be provided, and can in this way send it to the world.

研究分野：日本考古学

キーワード：考古学 日本史 日本考古学 古墳

1. 研究開始当初の背景

英国人のウィリアム・ゴーランド (William Gowland) は、1872 (明治5) 年10月8日に大坂造幣寮に着任した。以来、1888 (明治21) 年までの16年間、その本業の余暇を利用して日本各地の古墳を調査した。その範囲は大和、河内、摂津、近江、美濃の近畿および周囲を中心として、出雲、石見、伯耆、備前、播磨の中国、日向、豊前の九州、伊予などの四国、武蔵、上野など関東の古墳にまで及んだ。そうして得た調査資料や古墳出土資料の一部がゴーランドによって持ち帰られ、現在、その資料がイギリス大英博物館に所蔵される。その中でも古墳に関連する残された書類や写真、出土遺物などは多い。

そこで、ゴーランド・コレクション調査プロジェクトを組織し、それらの古墳資料を中心に、図化・写真撮影・計測を行うことによって総合的な資料化を進めるとともに、ゴーランドが日本で調査した古墳についての再検討を二本柱として作業を行った。

2. 研究の目的

本研究は、日本の考古学の黎明期に活躍した、ゴーランドの古墳資料の調査と研究を総合的におこない、日英双方にまたがる歴史遺産として、古墳研究のみならず、幅広い方面での理解と活用をはかることを目的とする。

ゴーランドが英国に持ち帰り、現在、大英博物館が所蔵する古墳出土遺物の図化・写真撮影・計測による総合的な資料化、ゴーランドが日本で調査した古墳の再検討を、研究基礎の二本柱とし、研究の再評価と古墳時代研究へ寄与することがねらいである。そして、そこから発生する成果について、国際的な理解を得られるよう加工をして活用するための基盤構築もめざすものである。

3. 研究の方法

大英博物館での調査研究の協力スタッフと実施体制をつくり、博物館での調査場所の提供や撮影機材の調達、実測や写真撮影を行う環境を整える。基本的に、各年1回、研究代表者・連携研究者・研究協力者が渡英し、1週間にわたって調査対象資料の実測・写真撮影等を行う。金属製品、土製品、記録類といった専門毎に現在の研究に求められる水準の資料化を進める。

ゴーランド資料を出土した京都府亀岡市鹿谷古墳群及び、ゴーランドが記録を残した奈良県橿原市丸山古墳において、詳細な測量をする。鹿谷古墳群では関連古墳の特定を行う。丸山古墳は前方後円墳の終焉や横穴式石室の変遷を考えるために、墳丘の精密な測量図を作成する。また、ゴーランドの記録から地名がわかるものについて(出雲、土佐、美濃など)、現地調査を行いながら、より詳し

い同定作業をする。

近畿、美濃、出雲を中心に国内調査し、古墳が所在する地元関係者とともにシンポジウムやワークショップを実施する。馬具・武器・武具、須恵器、後期前方後円墳墳丘、横穴式石室等、各専門担当が類例資料を検討する。

公開・報告にむけて、図面のトレース・写真のレイアウト、執筆などを行う。またゴーランドの記録資料の検討の後、勤務先であった造幣局やその他の関連機関の記録類についても検討する。これまでに得られた個別検討資料と比較検討するため、京都・東京の博物館・大学などの所蔵関係資料も精査する。

調査で得た知見は随時、博物館での展示や雑誌の紙面などで紹介する。それらをまとめ、周知する刊行物を作成する。英文版の形式については、大英博物館と協議を行う。市民への普及用の報告も作成する

成果の検討報告会として、日英の双方においてシンポジウム、ワークショップを実施する。日本や欧米において、ゴーランド資料のもつ意義と価値に対して理解と関心を高める形でホームページなどにおいて情報発信していく。

4. 研究成果

本研究では、前述した目的を達成するため、大英博物館において、馬具・鉄鏃などの金属製品、須恵器・土師器・埴輪などの土製品といったゴーランド・コレクションの古墳資料を中心に、図化・写真撮影・計測を行うことによって総合的な資料化を行った。その際、特に小破片のものは充分には吟味されていなかったことから、新知見は多い。金具片では、胡籙が復元できたことや環だとゴーランド以来、解釈されていたものが大刀に附属する捺じり環片だと分かり、13点が確認できた。また、時期が確認できない古墳の須恵器片を採取することや窯壁の付着した須恵器片を採取してゴーランドが日本で最初に窯跡を調査したことを裏づけることもできた。さらにロンドン古物学協会の記録類も合わせ検討した結果、大英博物館にゴーランドが持ち込んだ資料はほとんどそのまま良好に保存されていることが分かった。写真資料や書類も検討に加え、それら成果の報告のための図面のトレース・写真のレイアウト、執筆作業も行った。

国内資料の調査では、必ずしも出土古墳が特定できなかったゴーランド資料を出土した鹿谷古墳群では、茶ノ木山の古墳において、墳丘測量図を作成し、京都国立博物館所蔵の絵図面と照合することができた。ゴーランドが記録を残した橿原市丸山古墳は前方後円墳の終焉や横穴式石室の変遷を考えるために、墳丘の精密な航空測量図を作成した。墳丘の復原と宮内庁作成の石室図をあてはめることができ、ゴーランドの計測精度と測量

方法を探ることが可能となった。

大英博物館での資料化することの意義について、2012年と2016年にワークショップを行った。国内では、ゴーランドの記録のなかにある出雲や美濃の現地調査を行いながら、大英博物館にある関連資料の報告を地元現地で行う、シンポジウム、ワークショップを実施した。

2012年、大英博物館グレートコート地下、サックラー室(The Raymond and Beverly Sackler Rooms)でのワークショップでは、その際、調査作業は取りかかったばかりであったものの、その成果の一端を各自が持ちよることで、今後の調査作業の基礎研究に必要な目的の確認とより建設的に調査するための見通しを確立させることができた。

これには大英博物館スタッフ、セインズベリー日本藝術研究所、日本のプロジェクトチームメンバー、他にドイツ、オランダの研究者も参加した。このなかで確認されたゴーランド・コレクションの特徴は、広く総合的な分野に及ぶポテンシャルをもつ。細かな破片に至るまでの一括したコレクションの最も強調される普遍的な価値があるというものであった。明らかにできるものは、1. 大英博物館が総合的に保存-ゴーランド記述の保存性。2. ゴーランドと考古学史のつながり、そして、その科学的方法論を遂行するためのアイデア。3. 国家形成の記述-アジア全体史との関係性の追求であった。

2016年、同じく大英博物館サックラールームにおいて、大英博物館関係者をまじえ「Official Workshop Treasures from the ancient Japanese mounded tombs: current research on the Gowland Collection」というワークショップを実施した。そこでは、本研究で行ってきたデータベース、生産遺跡、須恵器、馬具、学史に伴った作業の進捗とその成果を説明し、さらなる研究の進展を意識した。特にその際、それぞれのデータを一括し、一連のもの、有機的につなぐツールとして、ゴーランドの残したメモ、書類、添付資料の読み込みの重要性が指摘された。

そうしたゴーランドのメモは残された出土品や写真を有機的につなぐツールとして有効はものであり、明治時代の古墳調査の具体的な実態を探ることのみならず、日本古墳時代研究の学史、起源そのものに直接関わり、日本における研究の進展にゴーランドの調査が誘導した可能性が考えられるに及んだ。

ワークショップの他に、ロンドンでは日本国際交流基金(The Japan Foundation, London Office)の招きで、本研究の概要について、講演した。Kazuo Ichinose, Tetsuo Hishida, Keizo Kutsuna “Public Seminar William Gowland: ‘the Father of Japanese Archaeology’ ” Oyatoi-Gaikokujin and the Modernisation of Japan”

国内での公開関係は、まず先行して鹿谷古墳群についてのものがある。それまで古墳の

分布調査を行ってきた龍谷大学考古学研究会の学生と地元関係者とともに、2011年に稗田野町鹿谷公民館において講演会を行い、それに沿って意見交換した。ここでは地元でのゴーランドの伝承等は見いだせなかったが、茶ノ木山支群の墳丘測量調査の必要性が確認された。

2014年、明治大学博物館と共催で、企画展示「ウィリアム・ガウランドと明治期の古墳研究」(9月6~28日)を行った。その企画展に合わせ、シンポジウム「古墳研究のさきがけ-ガウランドを考える-これまでの研究成果と大英博物館所蔵資料に関する新知見-」を明治大学駿河台キャンパスで行った。ここではゴーランド・コレクションをはじめ本格的に調査した大塚初重氏からゴーランドの古墳研究とその意義が語れ、その後の研究の進展状況を具体的に展示で示すことができた。

一方、ゴーランドの記録のなかにある岐阜県大垣市赤坂の現地調査と地元研究者とともに美濃関係のメモが残る土器の比較、検討のためのワークショップを行った。その結果を2014年の大垣市歴史民俗資料館歴史講演会において『ゴーランドと古墳の調査』と題して発表し、周知をはかった。

2015年に島根県立古代出雲歴史博物館講義室において、「山陰古墳研究の黎明-近代考古学研究的父・英国人ガウランドの足跡」と題したワークショップを行った。渡辺貞幸氏に過去の出雲でのコレクション調査、ゴーランドの調査活動の状況をベースに、出雲コレクションの実態、ゴーランドが関係した出雲地域の古墳のその後の知見など、地元の方々の参加があり、ゴーランドの土地の記憶の情報交換ができた。

類例資料の検討については、馬具・武器・武具、須恵器、後期前方後円墳墳丘、横穴式石室等、各専門担当が検討した。その成果は『古代学研究』誌上やパンフレットで順次、報告、公開を行っている。

ゴーランド関係地の調査として、京都・東京の博物館・大学などが所蔵する関係資料調査や絵図の写真複製などを行った。またゴーランドの記録資料の検討の後、勤務先であった造幣局やその他の関連機関の記録類についても検討を本格化させた。

英国では、ロンドン古物学協会の記録類の翻刻を公表できた。国内資料の調査では、ゴーランド資料を出土した京都府亀岡市鹿谷古墳群出土馬具と京都国立博物館に残る絵図を照合した。

今後とも、総合検証で得られた基礎資料をもとに、日本古墳時代研究へ寄与、発生する国際的な理解を得られる形にし、世界への発信、活用をめざしていく。またゴーランドの記録資料の検討の後、ゴーランドの勤務先であった造幣局や国内調査の経路、その他の関連機関の記録類についても十分に検討する。細やかなゴーランドの調査の再復元にも迫

りたい。それぞれの調査は、イギリスで総合的資料化を行って日本国内で研究が進展する類似資料との評価が可能となりつつあること。ゴーランドが日本で調査した古墳の再検討も丹波・山城・大和・出雲・美濃で実施でき、それぞれの地域の古墳研究のつぎあわせすることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 11 件)

1. 一瀬和夫、岡本篤志、大英博物館所蔵ゴーランド・コレクションの埴輪調査、京都橘大学大学院研究論集 文学研究科、なし、14号、2016、pp.30 -44

2. 竹村亮仁、ロンドン古物学協会ゴーランド・ノートと大英博物館ゴーランド・コレクションとの比較・照合、京都橘大学大学院研究論集 文学研究科、なし、13号、2015、pp.38 -170

3. 富山直人、特集 ゴーランド・コレクション調査WS、古代学研究、査読有、207号、2015、pp.35-45

4. 富山直人、笹栗拓、特集 ゴーランド・コレクション調査WS、古代学研究、査読有、206号、2015、pp.38-45

5. 忽那敬三、ガウランドの登山記録と古墳調査、明治大学博物館研究報告、査読有、第20号、2015、pp.1-12

6. 富山直人・金宇大・諫早直人・片山健太郎、特集 ゴーランド・コレクション調査WS、古代学研究、査読有、204号、2014、pp.24-37

7. 前田俊雄・富山直人、特集 ゴーランド・コレクション調査WS、古代学研究、査読有、203号、2014、pp.22-35

8. サイモン・ケイナー、西村秀子、竹村亮仁、富山直人、特集 ゴーランド・コレクション調査WS、古代学研究、査読有、197号、2013、pp.1-14

9. 一瀬和夫、荒木瀬奈、檀原丸山古墳測量調査、京都橘大学文化財調査報告 2012、査読無、2013、pp.6-15

10. 一瀬和夫、森下章司、前田俊雄、土屋隆史、富山直人、菱田哲郎、忽那敬三、特集 ゴーランド・コレクション調査WS、古代学研究、査読有、196号、2012、pp.1-17

11. 一瀬和夫、村岡瑞穂、檀原丸山古墳埴輪模型製作資料、京都橘大学文化財調査報告

2011、査読無、2012、pp.37-40

〔図書〕(計 4 件)

1. 竹村亮仁・富山直人・西村秀子・忽那敬三・岡本篤志、ゴーランド・コレクション調査プロジェクト、ゴーランド・コレクション総合研究の新知見に基づく日本古墳時代像・研究史の再構築 News Letter No.1、2016、36

2. 忽那敬三・佐々木憲一、信濃大室積石塚古墳の研究IV-大室谷支群ムジナゴローロ単位支群の調査-考察篇、2015、342

3. 一瀬和夫・富山直人・西村秀子・竹村亮仁・前田俊雄・菱田哲郎・土屋隆史・金宇大・諫早直人・森下章司・荒木瀬奈、ゴーランド・コレクション調査プロジェクト、大英博物館ゴーランド・コレクションの調査から、2015、18

4. 一瀬和夫・齋藤真貴、NHKスペシャル 知られざる大英博物館 日本、2012、189

〔その他〕

ホームページ等

http://www.britishmuseum.org/research/collection_online/search.aspx

(?searchText=gowland)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

一瀬 和夫 (ICHINOSE, Kazuo)
京都橘大学・文学部・教授
研究者番号：70460681

(2) 研究分担者

菱田 哲郎 (HISHIDA, Tetsuo)
京都府立大学・文学部・教授
研究者番号：20183577

佐々木 憲一 (SASAKI, Kenichi)
明治大学・文学部・教授
研究者番号：20318661

森下 章司 (MORISHITA, Shoji)
大手前大学・総合文化学部・教授
研究者番号：00210162

諫早 直人 (ISAHAYA, Naoto)
独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所・都城発掘調査部・研究員
研究者番号：80599423

(3) 連携研究者

高橋 照彦 (TAKAHASHI, Teruhiko)
大阪大学・文学部・准教授
研究者番号：10249906

岡本 篤志 (OKAMOTO, Atsushi)

大手前大学史学研究所・研究員
研究者番号：30438585

日高 慎 (HIDAKA, Shin)
東京学芸大学・教育学部・准教授
研究者番号：70392545

前田 俊雄 (MAEDA, Toshio)
奈良県立橿原考古学研究所・研究員
研究者番号：90618886

山田 俊輔 (YAMADA, Shunsuke)
千葉大学・文学部・准教授
研究者番号：10409740

宮川 禎一 (MIYAKAWA, Teiichi)
京都国立博物館・学芸部・企画室長
研究者番号：30280530

塚本 敏夫 (TSUKAMOTO, Toshio)
財団法人元興寺文化財研究所・研究員
研究者番号：30241269

忽那 敬三 (KUTSUNA, Keizo)
明治大学博物館・事務室・学芸員
研究者番号：90325069

(4)研究協力者

ティモシー・クラーク (Timothy Clark)
大英博物館・アジア部・日本セクション長

ニコル・ル・マニエール (Nicole Coolidge
Rousmaniere)
大英博物館・アジア部日本セクション・キ
ュレーター、セインズベリー日本藝術研究
所・所長)

サイモン・ケイナー (Simon Kaner)
セインズベリー日本藝術研究所・副所長・
考古・文化遺産センター長)

富山 直人 (TOMIYAMA, Naoto)
神戸市役所

土屋 隆史 (TSUCHIYA, Takafumi)
宮内庁書陵部陵墓課陵墓調査室・研究官

西村 秀子 (NISHIMURA, Hideko)
大学史学研究所・研究員

竹村 亮仁 (TKEMURA, Katsuhito)
埋蔵文化財調査研究センター・調査員

金 宇大 (KIM Udai)
奈良文化財研究所・アソシエイト・フェロ

片山 健太郎 (KATAYAMA, Kentaro)
京都大学大学院博士課程後期